2024 年度
自己点検・学校評価報告書

ルーテル学院中学・高等学校

2024年度教育方針について

1．2023年度の状況と2024年度に向けての課題

新型コロナウイルス感染症が5類へと変更となり、徐々に日常へと戻りつつあるが、インフルエンザ感染者が例年よりも早い時期から現れており、感染症対策の継続が必要あった。

高校については昨年度入試で多くの不合格者を出すこととなり、本年度の一般入試では受験者が減少したが専願・奨学入試では昨年並みの受験者数であった。中学については定員に近い入学者を得ることができた。少子化が加速する中でより多く志願してもらえる魅力づくりが必要だと思われる。

また、管理職体制を見直し、スクールロイヤーを試験導入して様々な諸問題に初期対応できるようにしていきたい。

さらに、昨今の物価上昇への対応のため、校納金の値上げを行いたい。

2．学校の基本目標

・「在校生にとって入学して良かった」、「保護者にとって選んで良かった」、「卒業して良かった」、「教職員として働いて良かった」学校を目指す。そのために生徒の「居場所」を設けることと「出番」を与えることに努力する。

・「育てたい生徒像」＿『あしたを拓く生徒』（仮）　－豊かな人間力と確かな学力－

3．具体的事業計画

（1）施設計画

① 100周年に向けての本館改修として、礼拝堂の床や椅子を含めたリニューアル、各教室のエアコンの入れ替え（全体的に古い機器となっており、省エネ対策としても必要不可欠）、体育館の空調整備（特に夏場において熱中症アラートが出される時間が多くなり、体育の時間が制限を受けてしまっている）、教室床面の整地（全体的にデコボコしており、机がぐらついてしまう）や教室ドアのスライド化など、改修に向けて整理し、実行していく。

（2）教学面

① キリスト教教育の充実

a．学院標語である「感恩奉仕」に示される建学の精神と教育理念を基にしたキリスト教教育の充実をはかる。

b．教職員の教育力向上のため、興味関心に合わせた研修会等をオンラインも含めて実行していく。

c．「7つの習慣」を取り入れ、授業や生徒指導・部活動において共通言語として活用し、自分の選択を意識して行動し、自身に与えられた「役割」と「目標」を考え、誰かのために行動し、相手を理解することで自分が理解される人となれるよう生徒を育てていく。まずは教員研修から始めたい。

② 校務運営の充実

a．端末内にデータを残さず安全に利用できる環境を整えるためのゼロトラスト環境への整備の2年目として、校務・学習データをクラウド化し、教員の負担

軽減につなげる。

b．教職員間での情報共有と行動連携を測り、組織力を高める。

c．校務運営の最適化をはかるため、法人とも連携しながら働きやすい環境創りを検討する。

③ 高校新学習指導要領への対応と進路保障・ICT への対応

a．新学習指導要領が変更となった最初の年となるため、大学受験に対する情報収集と変更点をまとめ、高 3 学年団・進路部・教務部と協力しながら準備を行っていく。

b．生徒が主体的に活動できる授業を中心とした学習指導（教科指導）を通じ、授業力、担任力などの教師のスキルアップに努力する。

c．中高生徒はすべて iPad を利用するが、教員は Windows 端末と iPad を同時に持つようにし、共有されたデータにより場面に応じて教職員が端末を選択しながら利活用できるツールとして校務に使えるようにしていく。

d．高校においてはプロジェクター＋スクリーンを授業で使用しているが、天吊り型の大型モニターへの設置を検討していく。（100 周年施設計画に反映することもあり得る）

e. ICT 支援員の導入による授業でのタブレット活用を促進する。

④ 将来の社会を支える生徒の育成

a．自己コントロール力・表現力・対応力・忍耐力等の育成に努力する。

b．「ルーテル区役所」のように生徒自身に社会の問題に生徒が自ら考えて行動できる力を育むことができる機会を与える。

c．他の人たちと協力して課題に立ち向かうコミュニケーション力を育む。

⑤ いじめの防止や特別支援教育の充実と性同一性障害への対応

a．いじめ事案等には早期発見できるよう適切な対応を図り、またその防止のためにも他への思いやりの心を育てるよう努力する。スクールロイヤーを試験的に導入し、学内の第三者的存在として生徒・保護者や教員へのアドバイスができる体制を整える。

b．発達障害等の特別支援への組織的取り組みを継続する。不登校等による進路変更への対策を組織的に取り組む。

c．LGBTQ 対応については昨年度作成したガイドラインを活用し、学校として可能な範囲での支援の検討を行う。

⑥ 生徒募集活動の強化

a．高校各コースの教育内容の見直しを行い、生徒の満足度を高める。

b．オープンスクール等を積極的に行い、受験へつなげる。

c．2024 年度入試より中高ともに Web 出願への変更を行ったが、今後は入試から教務・進路データへと繋がる一貫した BLEND というシステムを導入していく。

d．100 周年に向け、学院全体の教育を協議し、ルーテル学院の特色ある教育に取り組む。

e．ホームページを刷新し、学校案内との連携や各 SNS との連携を強化し、外部への発信力を高める。

⑦ 国際交流プログラム等の充実

a．インマヌエル・カレッジ（オーストラリア）・オークグローブ（アメリカ）等との交換留学制度と短期研修の充実を図る。

b．上記 a．以外にもアメリカ・台湾等の高校・大学との連携も検討する。

c．アメリカ・韓国・ヨーロッパ等、海外研修旅行の検討を進める。

⑧ 中・高・大の連携

a．学院内の連携について具体的な教育プログラムへの取り組みを行う。

b．必要な情報の交換を行い互いの理解を深めることで高大接続の拡大、強化につなげる。

学校関係者評価について

日時：2024 年 10 月 23 日（水）10 時～12 時
場所：ルーテル学院中学・高等学校
学校関係者評価委員：
　小崎　愛季：保護者・PTA 副会長
　野島　規子：卒業生・のいばら会会長
　佐治　憲彦：黒髪地区・黒髪 12 町内自治会長
　洲上　敬介：企業・肥後銀行執行役員支店長（欠席）
　岡村　健太：大学・児童教育専攻　専攻主任
学校参加者：
　鶴山校長、野口チャプレン、田仲副校長、矢島高校教頭、永守中学教頭、綾垣事務長
　※事務・記録担当：坂口課長
内容：
（１）、開会の祈り
（２）、学校関係者評価委委員と学校関係者の紹介
（３）、授業参観・施設見学
　中学：「体育　J3」　担当　横山学・西山勇介
　高校：「家庭基礎　S２-5」　担当　野島佳奈子
　校舎内見学：インターナショナル小学部、高校本館、旧プール跡地、体育館など
（４）、学校の近況および今後について
　鶴山校長より近況報告がありました。
　本年度の入学者は昨年より増加しているものの、学則定員を下回っています。学則定員を充足させることが目標です。特に高校については、以前 3 年連続で 350 名～360 名の入学者があり、「定員を守る」という観点から定員ギリギリのところで判断したことや、公立高校の美術科において 2 次募集が行われ、入学者が減ってしまった要因などが考えられます。
　部活動ではスポーツ・文化系ともに活躍する生徒が増え、毎年、九州大会や全国大会に出場する生徒が増えました。一方で旅費、宿泊費などが高騰しており、財源確保の検討も必要になっています。
　教職員の校務の「ゼロトラスト化」は昨年度より取り組んでおり、本年度は全ての教職員に Windows 端末と iPad を配布することができました。同時に昨年度より入試も WEB 出願での受付を開始しており、校務支援システムと連動した「BLEND」を導入することで、アプリ上で保護者も成績や出席状況が確認できるようになりました。
　100 周年に向けては次の 3 点を中高で計画しています。
　・2025 年 10 月 10 日に 100 周年プレコンサートを県立劇場で実施予定。
　・礼拝堂を中心とした校内整備。
　・体育館を優先とした全館の空調整備。
　学校行事では、学院祭を久しぶりに一般開放として実施しました。あいにくの雨に

もかかわらず、多くの来場者が訪れました。

生徒と教職員の取り組みとして、スクールモットーである「感恩奉仕」をより具現化するために「7 つの習慣」を取り入れ、中高の生徒が自立して活動できるサポート体制を作っていく予定です。

（5）、学校評価アンケートの説明

実施した学校評価アンケートの結果について説明を行いました。

今年のアンケート結果については、昨年度の結果と比較した際にまず大きく変化が見られたのは回答率です。生徒の回答率はおおむね例年通りでしたが、保護者の回答率が低く、次年度はアンケートの取り方や時期を工夫する必要があると感じています。

項目ごとの比較では、「学校行事が活発に行われている」という項目が中学で 9.5%、高校で 26.9%上昇しており、保護者の回答でも同様に「学校行事（体育大会・学院祭・キリスト教関連等）が充実している」という項目が上昇していることから、コロナ禍からの回復傾向が見られます。また、同じ理由で「グローバル教育（国際交流）が活発に行われている」という項目も上昇しており、インマニエルからの交換留学生が再開されたことが大きな理由となっています。

しかし、保護者の回答では前年度よりマイナスになっている気になる項目がありました。特に「人権教育の推進に努め、生徒を大切にしている」「心の教育（思いやり、感謝の心等）の指導が適切に行われている」といった項目は、保護者が学校に対する期待の大きさをうかがわせます。引き続き生徒と向き合い、教育の充実を図っていきたいと考えています。

（6）、意見交換

評価委員の皆様から学校への意見や授業参観の様子、学校見学での感想をいただき、それぞれの委員の質問に学校側が答えました。各委員の意見や質問は次のとおりです。

・保護者も学校も密に意見を言い合える関係ができており、とても雰囲気がいいと感じている。
・のいばら会と PTA と一緒に何かできたらと感じている。
・PTA 教養委員会では、今年は講演会を開催して保護者にも好評だった。
・学校見学をして、以前から変わらないところもあったが、調理室が IH になっていて近代的になっている部分もあり、とてもきれいだった。
・体育館はとても暑いだろうと感じたので、改善が必要だと思う。
・生徒の挨拶と笑顔がとても良く、好感が持てた。
・同窓会では、今年 5 年ぶりの「ホームカミングデイ」を開催することができる。
・地域住民からルーテル学院に対する悪い意見をあまり聞かないので、生徒たちが活発に生活しているのはいいことだと感じる。
・アンケート結果を見ていて、特に中学の保護者の満足度が下がっているのが気になる。
・この学院は大学、中高、小学部、幼稚園、保育園がある学院だということを強みに、相互の乗り入れができる環境が整うといいのではないかと感じる。
・大学生が授業のサポートに入ることも、今後検討してみるといいのではないか。

今後の改善方策

今回、評価委員の方に家庭科の教室での授業と新しくなった調理実習室を見てもらった。新しい実習室は、安全性と家庭での活用を考えて、IH クッキングヒーターを導入したことに評価していただいた。また、体育館での体育の授業を見学してもらい、夏場の暑さ、冬場の寒さへの対策が難しく、対策を検討していることに理解をしていただいた。

「生徒・保護者アンケート」に関しては、前回に比べて保護者の回答率が下がってしまったことが、大きな改善点となった。また、アンケート結果の中で、「心の教育」に関する項目の低下について、引き続き丁寧に対応していくことが重要であることが指摘された。

一方で、PTA や同窓会からは、学校との関係をより一層良好なものとし、連携してより良い学校環境を作っていきたいとの発言をいただいた。

今後については、４月から始まったインターナショナル小学部との連携を検討しながら、学院全体での教育活動を充実させていきたい。２年後に迫った学院創立１００周年に向けて、より良い魅力ある学校づくりを行って地域社会に貢献できる存在でありたいと考えている。

理事長所見

ルーテル学院中学高等学校では、学校への満足度を高めるという目標を掲げています。具体的には、「在校生にとって入学して良かった」、「保護者にとって選んで良かった」、「卒業して良かった」、「教職員として働いて良かった」と思ってもらえることを目標に、日々生徒と向き合っています。

そのため学院評価委員会では、学校の雰囲気を見てもらうための授業参観や意見交換を行い、学院評価アンケートを実施し、生徒、保護者、教職員からの幅広い意見を求めています。ご意見いただいた中には施設整備に一定の評価をいただいているところもありますが、キリスト教主義学校として教育の根幹においている人格教育、心の教育に対して、まだまだ不十分だというお声もありました。今回頂いたこのような貴重なご意見をしっかりと受け止め、教職員一丸となり、さらなる教育活動の充実につなげていきたいと考えています。

またご存じの通り、2026 年に学院は創立 100 周年を迎えます。そのために各委員会を立ち上げ、具体的な事業計画も検討さを始めました。その一つが正門の拡張工事です。今年度は、インターナショナル小学部が開学し、園児から大学生まで多くの人数が正門からの坂道を登校するようになり、園児、児童、生徒、学生たちの安全確保が喫緊の重要課題となりました。そのために今年度から具体的な計画を進めています。その他にも、中高では礼拝堂の椅子のリニューアル工事、教室のエアコンの入れ替え工事、体育館のエアコン新設工事などを検討しています。ただこれらの計画を実現するために、多くの費用が必要です。そのためにも皆様に募金のお願いを進めていきたいと考えています。誠に申し訳ありませんが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

理事長　内村　公春